

5 - 6 富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その10）

Crustal Movement Observation in the Fuji River and Suruga Bay Area (Part 10)

東京大学地震研究所 富士川地殻変動観測所
Fujigawa Crustal Movement Observatory
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

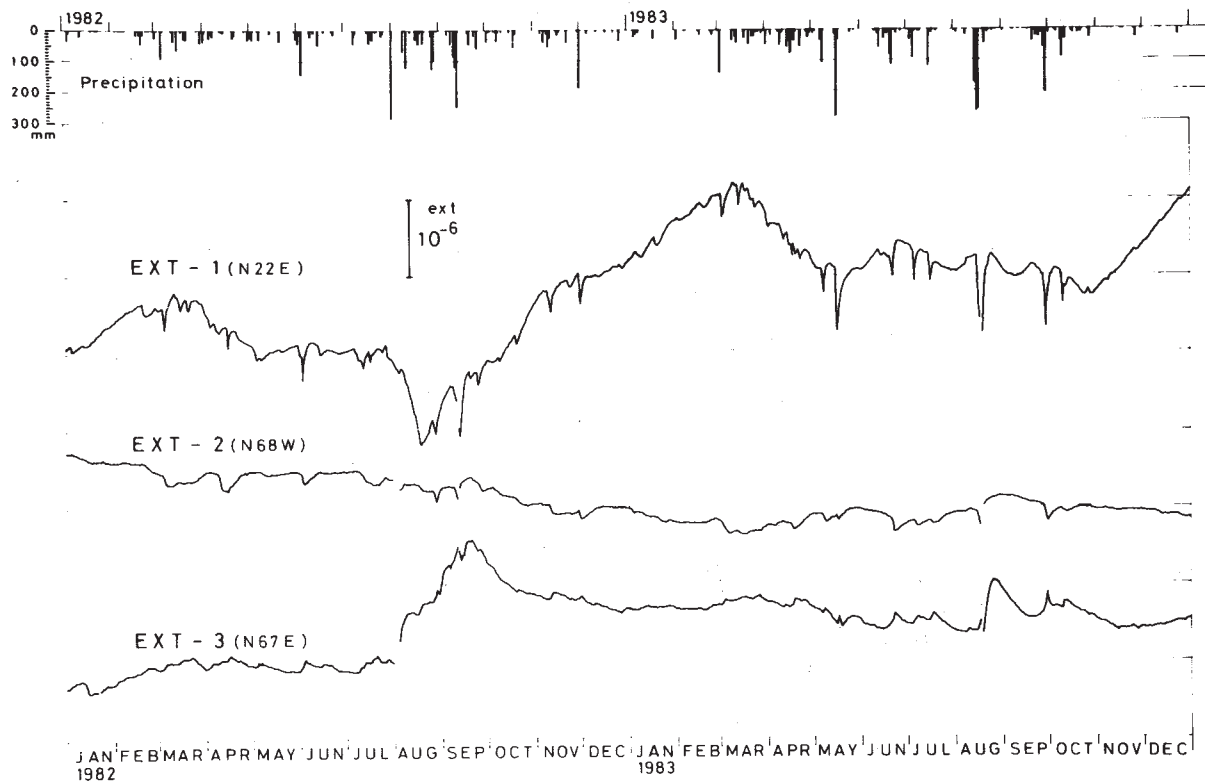
前報¹⁾に引き続き富士川地殻変動観測所で得られた地殻変動連続観測記録（傾斜・伸縮・雨量・気圧）及び微小地震活動について報告する。期間は1983年1月～12月である。参考のため1982年の資料も示す。第1図に伸縮計記録(a), 水管傾斜計記録（実線＝フロート式；点＝読取式）(b)を示す。日雨量記録及び気圧も示す。記録上に見られるスパイク状ノイズは、いずれも雨による影響である。1983年5月日本海中部地震, 同年8月神奈川県西部地震, 等による顕著な歪変化は見られない。

第2図は観測開始以来の傾斜計記録（読取値）の月平均値に12ヶ月の移動平均を施したものを合成して得られた傾動ベクトル図である。この図からわかる様に1981年から1982年にかけては、特に坑掘削方向の傾斜変動が小さく、ほぼ南向きの傾動が卓越している。

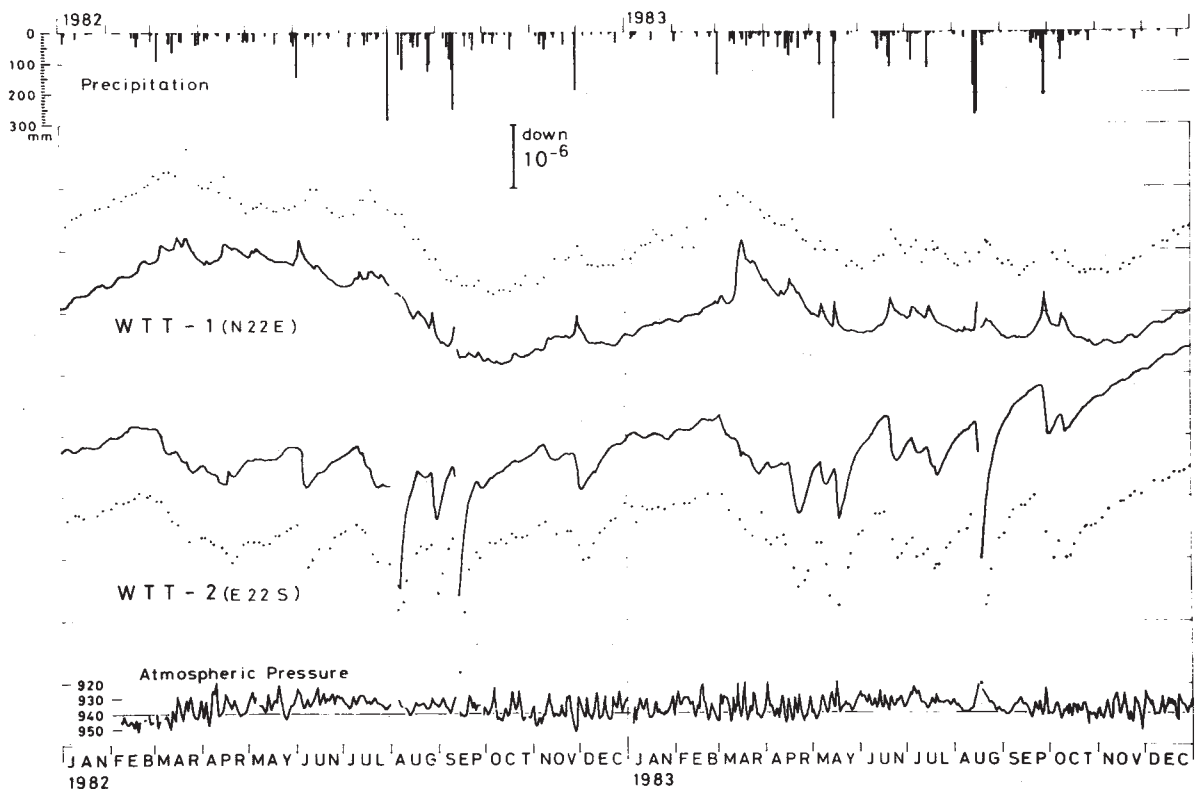
第3図(a)～(b)は6ヵ月毎の震源分布図である。前回報告したように、これらの震源分布図中で興味深いのはOKY（奥山）付近に群発活動のあることである。ほかに、観測所（FUJ）付近、屋敷（YSK）北東方にも群発活動が認められる。1983年5月の活動（第4図）は、これらの地域に発生したものである。

参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所富士川地殻変動観測所：富士川・駿河湾地方における地殻変動観測（その9）, 連絡会報, **29** (1983), 236 - 241.



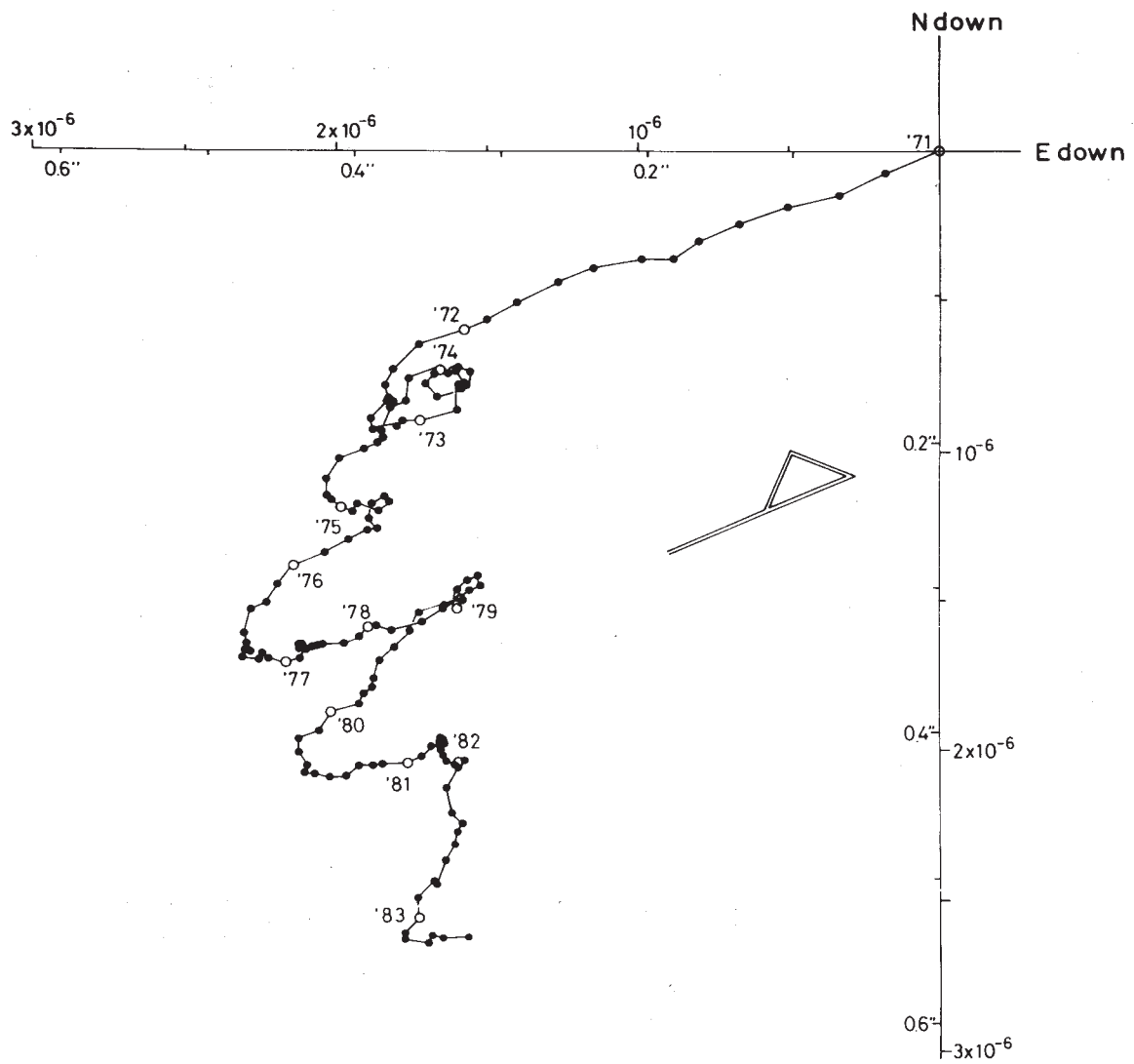
(a)



(b)

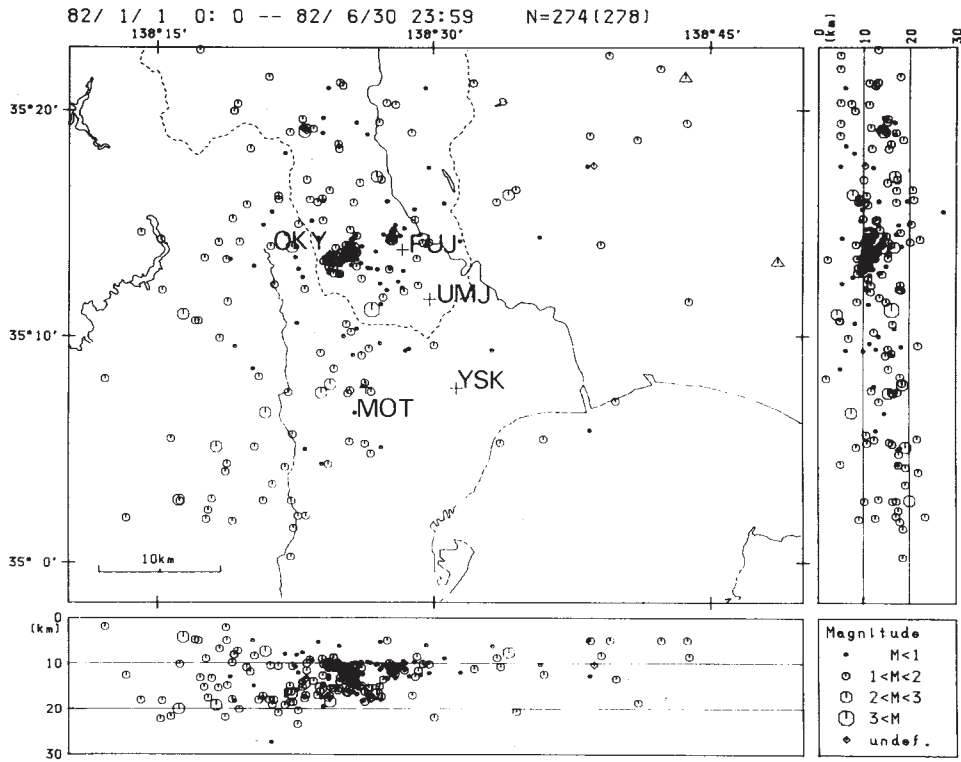
第1図 水晶管伸縮計，日雨量 (a)，水管傾斜計，日雨量及び気圧 (b) の観測結果。1982年1月～1983年12月（実線＝フロート式；点＝読取式）

Fig. 1 The earth's strain (a) and tilt (solid lines-float type WTT, dots-reading type WTT) (b) at the Fujigawa Observatory. Momentary values at 00h and readings of WTT are plotted.



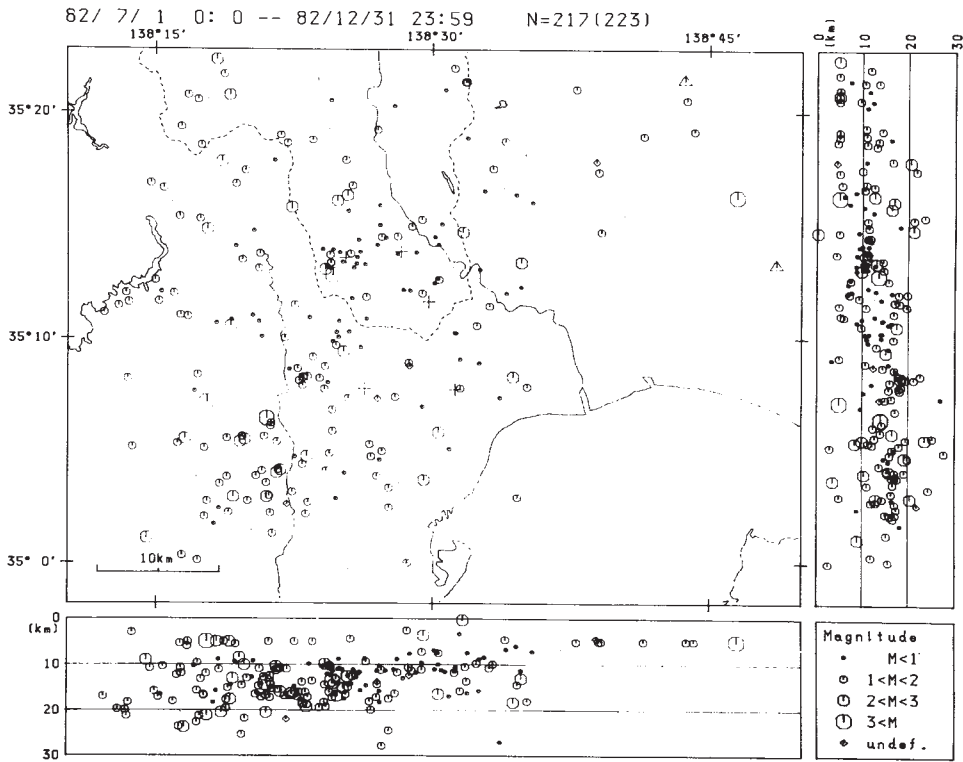
第2図 傾動ベクトル図

Fig. 2 Vector presentation of the cumulative tilt (after monthly running mean) at the Fujigawa Observatory.



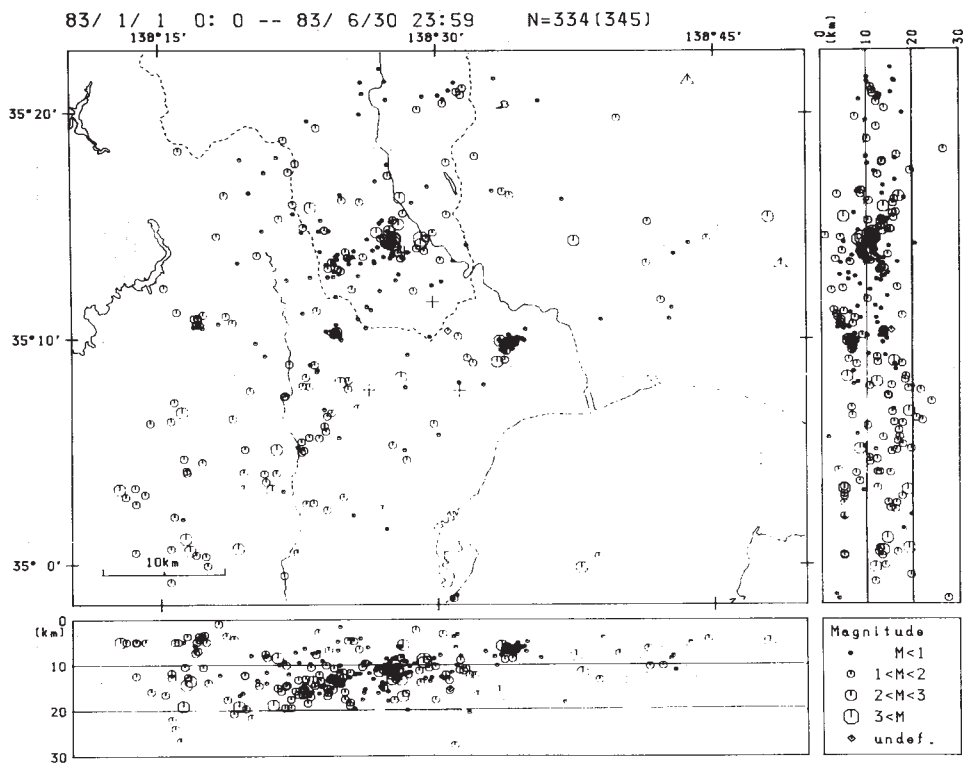
第3図 (a) 震源分布図。1982年1月～6月

Fig. 3 (a) Hypocenter distribution near the Fujigawa Observatory (January 1, 1982 - June 30, 1982)



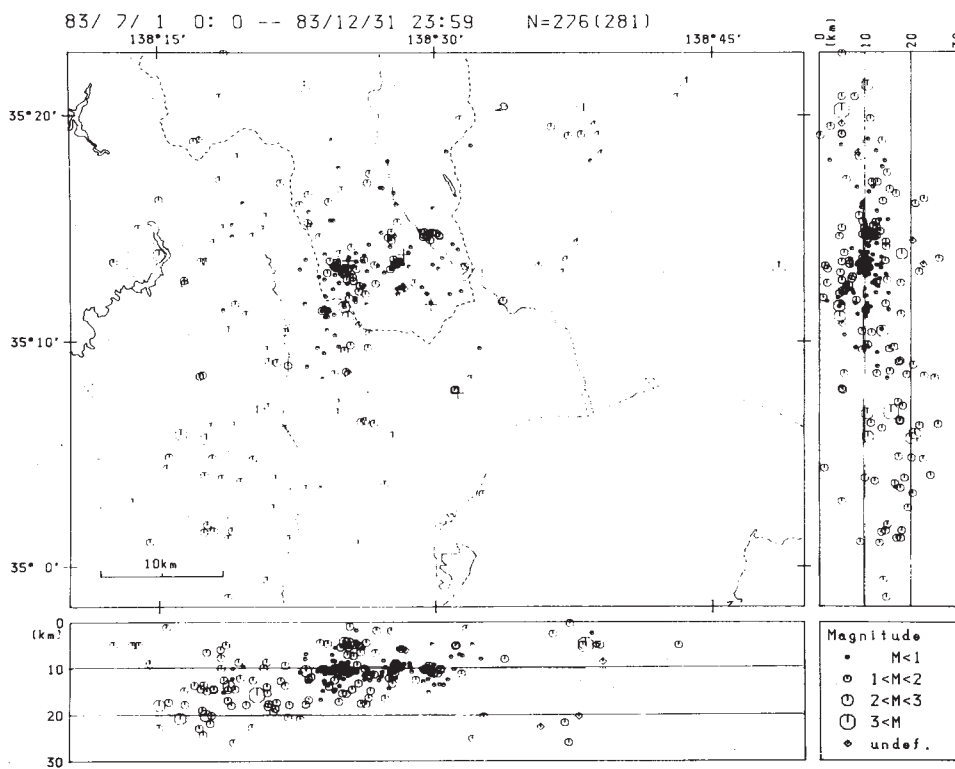
第3図 (b) 震源分布図。1982年7月～12月

Fig. 3 (b) Hypocenter distribution near the Fujigawa Observatory (July 1, 1982 - December 31, 1982)



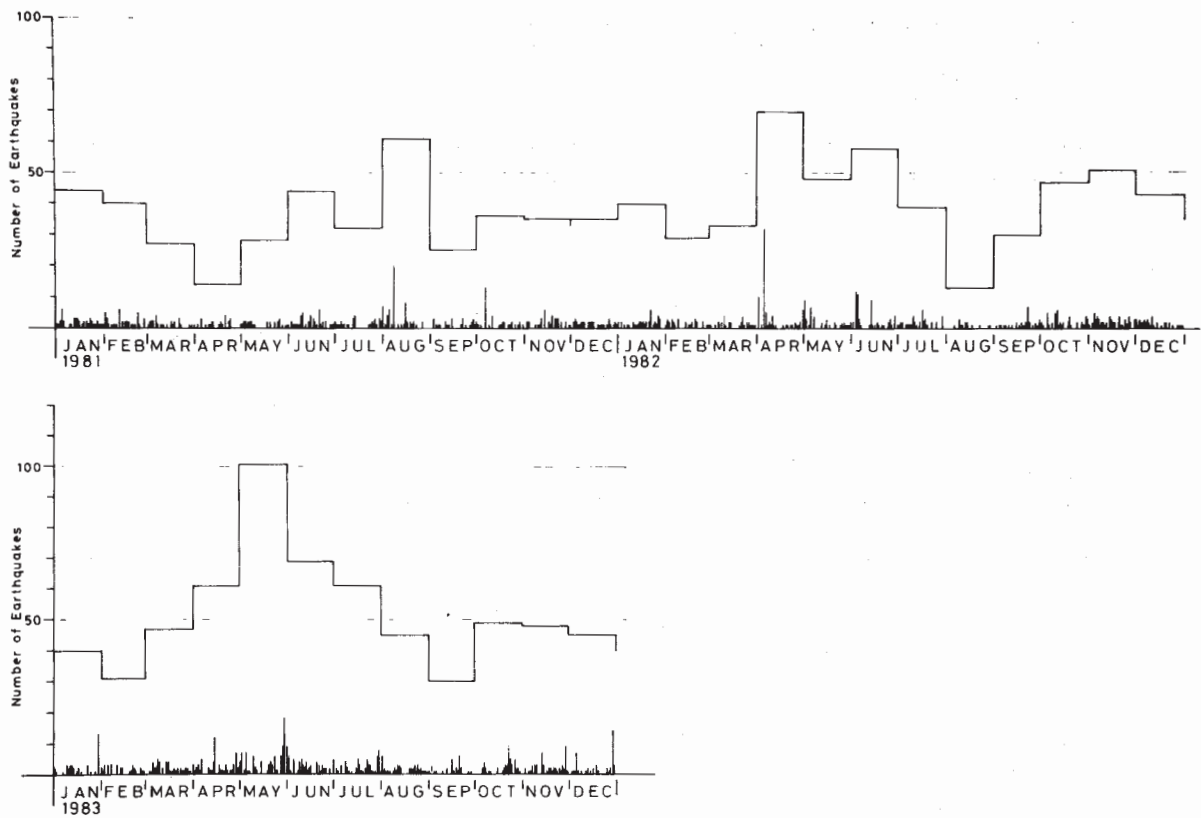
第3図 (c) 震源分布図。1983年1月～6月

Fig. 3 (c) Hypocenter distribution near the Fujigawa Observatory (January 1, 1983 - June 30, 1983)



第3図 (d) 震源分布図。1983年7月～12月

Fig. 3 (d) Hypocenter distribution near the Fujigawa Observatory (July 1, 1983 - December 31, 1983)



第4図 日別及び月別地震回数（震源の決められたもの）

Fig. 4 Daily and monthly numbers of earthquakes whose hypocenters are determined.